

シュウカン トウヨウケイジ  
『週刊東洋経済』  
東洋経済新報社/週刊/月曜発売



A.1 経済の複雑な事象を「見える化」

膨大な情報から本質を見抜きたい読者のために、経済事象の「見えない構造」を「可視化」する経済誌。現前の複雑な問題を考える上で手がかりとなる、視座や論点を読者が理解できるように、経済情報を整理し、分かりやすく提供します。

A.2 「2009「全解明」  
激変する世界を先取る！」

(2008年12月27日・2009年1月3日新春合併特大号)  
世界の金融危機に伴う実体経済の急速な悪化で、先が読めない時代。2009年の世界や日本の経済、企業業績、生活不安、資源・エネルギーなど関心の高いテーマを100項目にまとめ、「キーワード集300」を付録にしたのが好評でした。

A.3 旧態の思考様式を  
変革できる人・企業

停滞気味の日本人マインドに活力を与えてくれる経営者、企業。ニッポンの復活はマインドセットの変化から始まります。それを主導できる人の考え方や会社の戦略に注目ですね。

A.4 編集者 一つのエconomic事象に新しい視点と切り口を与え、それを、いかに読者に伝えるかを真剣に考えて誌面に反映できる人。

ライター しっかりとしたファクトを裏付けを持ち、かつ、権力や体制に媚びず、あらゆる角度から事象をとらえられる人。



鈴木 雅幸 編集長  
東京都出身

すずき・まさゆき/2001年1月東洋経済新報社入社。「金融ビジネス」編集部を経て、2005年「週刊東洋経済」副編集長。2008年7月に同編集長に就任。

シュウカン ダイアモンド  
『週刊ダイヤモンド』  
ダイヤモンド社/週刊/月曜発売



A.1 タブーなテーマにも挑戦

あらゆる経済事象に斬り込み、ビジネスパーソンの眼を常に刺激します。「週刊ダイヤモンド」でしか読めない大特集記事は「創価学会の経済力」「新聞没落」「日本生命 王国の崩壊」などタブー視される題材にも果敢に挑戦！

A.2 「ゼネコン・不動産 同時多発破綻！」

(2008年9月6日号)  
新興の不動産会社やゼネコンの倒産が相次いだ時期に「危ない会社の見分け方」「建設・不動産887社の倒産危険度ランキング」など50ページのコンテンツを絶妙のタイミングで提供できたことです。この号は2回「重版」しました。

A.3 アメリカ市場の復活

未体験領域に足を踏み入れた世界不況、および日本経済と中国経済の隔越。米国自動車産業とオバマ版「ニューディール政策」の行方です。米国による一極支配は終焉しても、世界の景気回復は米国市場の復活にかかっています。

A.4 編集者 無回答

ライター 無回答



鎌塚 正良 編集長  
埼玉県出身

かまづか・まさよし/1978年ダイヤモンド社入社。月刊誌編集部を経て91年より「週刊ダイヤモンド」編集部所属。2008年10月編集長に就任。

ザ・ニジュウイチ  
『THE21』  
PHP研究所/月刊/10日発売



A.1 プロの生の体験が読める

ビジネスマンの基本的な心得やスキルを、第一線の経営者やプロフェッショナルの体験談からあぶり出すのが特徴。体系化された既存ビジネス書と異なり、登場人物の生の体験が記事のベースなので、日々の仕事ぶりまでわかります。

A.2 「1980年代生まれの『仕事観』  
—石田衣良 VS. 香山リカ」

(2008年9月号)  
仕事に対するモチベーションの高い読者の向上心に、直接訴える特集テーマでした。読者は30代が中心ですが、石田衣良 vs. 香山リカ対談「1980年代生まれの『仕事観』」の掲載で、通常号以上に20代の読者を取り込めました。

A.3 made in Japan で経済復興？

made in JAPAN (=日本のモノづくりの実力)。100年に1度の世界的な不況下、日本経済が生き残るためのポイントの一つ!? 3月16日発行のビジネスアイテム誌「DUAL」(THE21増刊号)でも特集する予定です。

A.4 編集者 単なる企業情報への興味にとどまることなく、その会社の社員の働き方まで、想像力や好奇心を広げられる人。

ライター 編集コンセプトに沿いつつ、そこに+αして、若いビジネスマン読者を手助けする思いやりを行間にも込められる人。



山岡 勇二 編集長  
大分県出身

やまおか・ゆうじ/1985年PHP研究所に入社。「PHI」「Voice」「小泉歴史街道」各編集部を経て1995年、「THE21」編集部へ。2000年から現職。

ウェッジ  
『WEDGE』  
ウェッジ/月刊/20日発売



A.1 本質を探り建設的な提言を

事象の羅列にとどまらず、事象の底流にある本質的な問題は何かを探り、建設的な提言を目指します。動きや変化の激しい昨今にあって、国や社会や産業界、一人ひとりの生き方について、何らかの道標となればと考えています。

A.2 「こんな農協はいらない」

(2008年9月号)  
世界的な食糧危機が報じられ、わが国の農業についても読者の関心が高まっています。その中で「問題があることは薄々わかっているけれど、正面切って批判しにくい」農協をストレートに論じたことが、好反応につながりました。

A.3 愛媛西条高・秋山拓巳

愛媛県立西条高校・野球部の秋山くん。審判やバッティングと大物投手ぶりが、春のセンバツで見られるはず。娘さんの故郷の期待の星なので、勝手に注目しています。

A.4 編集者 ただニュースを追いかけるばかりでなく、時に立ち止って考えをめぐらすことを好む人。

ライター わりとマジメに「世の中こうあったら」と考える雑誌です。そんな編集部と想いを共有して下さる方などなただでも。



安斉 辰哉 編集長  
神奈川県出身

あんざい・たつや/WEDGE営業担当、書評担当、WEDGE 編集担当を経て、2004年からWEDGE 編集長に就任。